【日本の大学】第９０回―北九州市立大学：地域の特色活かし、社会の発展に貢献

北九州市立大学は、九州最北端にある人口約 100 万人の大都市、北九州市に本部のある公立の総合大学である。現在、外国語学部、経済学部、文学部、法学部、地域創生学環の文系 4 学部 1 学環と、理系の国際環境工学部 1 学部、大学院は社会システム研究科など文系 3 研究科と理系の国際環境工学研究科の計 4 研究科を有している。

理念・目的として大学では、産業技術の蓄積、アジアとの交流の歴史及び環境問題への取り組みといった北九州地域の特性を生かし、（1）豊かな未来に向けた開拓精神に溢れる人材の育成（2）地域に立脚した高度で国際的な学術研究拠点の形成を図り、もって（3）地域の産業、文化及び社会の発展並びに魅力の創出に寄与する（4）アジアをはじめとする世界の人類及び社会の発展に貢献する――ことを目指すとしている。

北方キャンパス正門（写真：Adobe Stock）

「平和の追求」理念の外国語大学

以下、大学のホームページなどを参照しながら、歴史や現況をみていこう。

大学の始まりは、第２次大戦直後の 1946 年 7 月の創設された小倉外事専門学校である。「平和の追求」を理念に設立された。4 年後の 1950 年には北九州外国語大学（外国語学部）に昇格し、1953 年には北九州大学に改称された。この際、商学部商学科が開設されている。

その後、商学部経営学科開設（1965 年）、同経済学科開設（1966 年、商学科の募集を停止）、文学部の国文学科・英文学科開設（1966 年）、法学部法律学科・政治学科の開設（1973 年）など、文系学部の増設が続いた。1980 年代には大学院の研究科（経営学、外国語学、法学）が開設されている。

1993 年には大幅な組織改正がなされた。商学部を経済学部に改称したほか、外国語学部（第 1 部）を英米学科、中国学科（同年から募集停止）から外国語学科の英語専攻、中国専攻への変更と、国際関係学科の開設を行った（2007 年に外国語学科を再び、英米学科、中国学科に再編）。さらに、経済学部に経営情報学科を開設、文学部に比較文化学科、人間関係学科を開設、法学部（第 1 部、第 2 部）に行政学科を開設（政治学科の募集停止）などが行われた。

また、2001 年には、大学の名称を北九州市立大学に改めるとともに、理系の国際環境工学部を創設した。文系学部や同大学院のある本部（北方キャンパス）に対して、国際環境工学部は北九州市若松区の「ひびきのキャンパス」にある。

北方キャンパス図書館

外国語学部は、大学創設当時から続く最も伝統のある学部である。現在は英米学科、中国学科、国際関係学科の 3 学科からなっている。英米学科では、入学すると到達度テストを受けてそのレベルに応じたクラス編成によって英語集中プログラムを通じて高度な英語運用

能力を身につける。クラスを少人数編成にして学生一人ひとりの修得状況を把握しながらきめ細かなサポートを行う。原則として全員が海外留学を経験し、英語で学ぶ能力を身につけたうえで、3 年次以降の三つの専門コースに進む。コースは「英語学・英語教育学」、「文化・社会」、「国際ビジネス」で、それぞれ英語教師、研究者、通訳・翻訳、国際企業など進むべき道を目指していく。

中国語学科は中国語を正確に使えるようにするため、集中的、段階的な教育システムを導入している。１年次には週４日の集中型総合授業を中心に正確な発音と基礎的文法を身につけるとともに、中国の歴史・文化などの基礎知識を学ぶ。２年次になると、会話・リスニング・作文・講読などの授業を中心に、中国語の運用能力を向上させるとともに、中国語や中国その他諸地域の様々な専門知識を学際的に学ぶ。３～４年次は、高度の中国語運用能力を用い、専門研究を進める。学生の理解を深めるために、中国語の母国話者（ネイティブ・スピーカ―）による授業を取り入れていることや、少人数のクラス編成で、きめ細かな指導を行っている。

国際関係学科では、国際社会の諸問題を、政治学、歴史学、社会学、経済学などの学際的な視点から分析し、現実に対処する方法を考える。国際理解を深める手段として、英語力を高めるとともに、東アジアの言語（中国語または朝鮮語）を学ぶ。

北方キャンパス本館

経済、文学部なども英語を重視

経済学部は、経済学科と経営情報学科の２学科からなっている。学科の特性を生かしながら、どちらの学科でも経済学のすべてを学ぶことができる。両学科の学生が受講できる「共通科目」を多く設けているのが特徴だ。学生は所属学科に関係なく、1・2 年生のうちに、両学科の 6 分野（ミクロ経済学、マクロ経済学、地域経済学、経営学、会計学、情報科学）の基礎をしっかり学んだうえで専門科目に進めるようにしている。

2 学科ともに世の中の経済現象を論理的にとらえようという意味では共通するが、分析の視点が違っており、経済学ではすべての経済主体（企業や消費者など）の動きを全体としてとらえるのに対し、経営学では個別の企業や組織の視点から経済現象にアプローチする。両学科ともに、少人数教育を徹底するとともに、英語教育を充実させている。

「人間について研究・探究してみよう」を合言葉に、教育・研究を続けているのが文学部である。比較文化学科と人間関係学科の 2 学科からなっており、比較文化学科では、日本文化と欧米文化をはじめとする異文化への深い意識を持ち、自文化の発信と異文化への理解を深める能力を持つ世界的な視野に立った人材を養成する。「文化資源」と「文化共生」という二つの領域を軸として、文学、思想、言語、歴史、美術、宗教、生活文化、メディアなど、多様な文化領域を総合的・学際的に学べる。異文化間の橋渡しをするためのコミュニケーション能力を高めるため、基盤教育科目の英語以外にも、1～4 年次にネイティブ・スピーカーによる英会話・英作文を配し、英語の運用能力を高める。

人間関係学科では、人と社会と文化の関係を探究する。学科の基礎となる専門基礎教育科目（全 11 科目）に関しては、1 年次に学び、人間の存在、行動、発達を社会環境や自然環境などの関連において総合的に学習する。2 年次以降は「心理学」「社会学」「社会福祉学」「人類学」「環境学」「生涯教育学」「生涯スポーツ学」などの専門領域について、講義だけでなく、実験・実習や演習によって研究・実践の方法を学ぶ。

法学部は 1973 年の開設以降、大学院法学研究科（修士課程）の設置（1984 年）、地域の勤労青少年、中堅社会人、主婦・年長者などの多様な学習ニーズに高等教育の機会を提供するために第 2 部法律学科・政治学科を開設するなどの改革を図ってきた。政治学科はその後、行政学科から政策科学科へ改組・改称されている。2000 年からは、全学的に第 2 部は廃止されたが、社会人などに対応するため、昼でも夜でも受講できるよう昼夜開講制を採っている。

2007 年、大幅なカリキュラムの改編を実施した。内容は（１）社会人として必要な基盤

教育を重視する（2）「少人数」教育をさらに拡充する（3）将来にわたるキャリア形成を意識して社会において実践性のある科目を創設する――の 3 点である。

地域の再生と創造が求められている中で、現場のリアルな理解に基づいた知識・理論・実践力を身につけることを目的に 2009 年に創設されたのが地域創生学環である。専門教育科目として、大きく実習科目、演習科目、地域創生科目、地域創生スキル科目、専門科目の五つの科目群から構成されている。2 年次からはコース制を導入。地域マネジメントコースとスポーツ・福祉コースに分かれ、分析力・企画力・実践力を目指していく。

体育館

「環境」に力点置く理系学部

唯一の理系学部である国際環境工学部が誕生したのは 21 世紀の初め、2001 年である。北九州市は九州最大の工業都市であり、2001 年には「アジアに開かれた学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指して、北九州学術研究都市が設立され、その中核的機関として新学部が設置された。学部名にあるように「環境」教育には特に力点を置いており、1 年次には必修科目として 1 学期に「環境問題特別講義」、2 学期には「環境問題事例研究」を設けている。特別講義では、現在世界で起きている様々な環境問題について、どのような技術がその課題解決に寄与しているのか、最先端の研究を動画教材や地域企業から招いた講師から学ぶ。事例研究では、学科横断で少人数グループを構成して、グループごとに興味関心のあるテーマの調査研究活動に取り組む。学科は五つあり、エネルギー循環化学科、

機械システム工学科、情報システム工学科、建築デザイン学科、環境生命工学科である。

ひびきのキャンパス国際環境工学部 N 棟

海外への留学生派遣や外国人留学生の受け入れに関しては、大学の国際教育交流センターが担っている。留学生の派遣では、海外語学研修を手始めに、派遣留学、交換留学などが用意されている。年 2 回、「留学相談会」を開催、留学経験者の体験談の発表や、海外協定校からリアルタイムで行われるプレゼンテーションを聞くことができる。交流センターの職員が留学制度や募集について個別に相談に応じている。

留学の協定を締結しているのは 13 か国・地域の 30 大学に上る。留学生の受け入れでは、学生交流協定に基づいて、留学生を特別科目等履修学生として 1 学期間受け入れるプログラムを設けている。短期留学生は、交流センターに所属して、日本語プログラムや、各学部が開講する専門科目を受講することができる。日本語プログラムは、日本語未経験者などゼロ初級クラスから上級クラスまで幅広いレベルの科目を提供している。日本をより深く学ぶため、日本の文化を知識と体験の両面から学ぶ講義「日本文化」を開講、伝統的な文化だけでなく、現代的な日本の文化・社会についても学ぶことができるようになっている。また、日本企業でのインターンシップを通じて「日本型経営」を学ぶため、留学期間中の 1～2 か月間、企業・団体において実習も行っている。

学生数は、学部・学群が 6210 人、大学院 547 人の計 6757 人である。このうち外国人留学生数は 300 人である。教員数は合計 259 人である。(2022 年 5 月現在)

現在の学長は柳井雅人氏である。柳井氏は九州大学大学院経済学研究科修了（経済学博士)、1993 年北九州大学経済学部講師として入り、94 年同助教授、2003 年 4 月に北九州市立大学教授に就任。04 年同経済学部経済学科主任（評議員)、05 年同学部経済学科長、06 年学生部長、11 年入試広報センター長、13 年経済学部長、15 年副学長などを経て、17 年から理事、副学長、地域戦略研究所長を務め、2023 年 4 月から学長に就任した。専門は、経済地理学、企業立地論である。

日文：滝川　進

写真：北九州市立大学 HP